

## 1 単元名 条約改正と中国・ロシアとの戦い

## 2 単元目標

- 日清・日露の戦争や条約改正に関心をもち、意欲的に調べ、国力の充実について考えようとする。  
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 我が国の国力が充実し、国際的地位が向上していった様子を、人物の働きや外国との関係を根拠にして考え、適切に図や文章に書いたり、説明したりすることができる。  
(社会的な思考・判断・表現)
- 年表や写真、文章資料、地図、グラフなどの資料を効果的に活用して日清・日露の戦争、条約改正を調べるとともに読み取ったことをノートや年表にまとめることができる。  
(観察・資料活用の技能)
- 日清・日露の戦争における勝利や条約改正を通して、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上していったことを理解することができる。  
(社会的事象についての知識・理解)

## 3 指導上の立場 ～響き合いを成立させるために～

- (1) 児童について ～主に新たな自己との響き合いの充実に向けて～

削除しています。

- (2) 単元について ～主に学習材との響き合いの充実に向けて～

本単元は、明治中・後期から大正期における、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正などの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことが分かることをねらいとしている。

この時代、日清・日露戦争では、我が国の厳しい国際環境に置かれた状況において、これらの戦争に勝利を収め、外務大臣であった陸奥宗光や小村寿太郎により講和条約が締結され、国の安全を確保することができた。そのことも影響し、国際的地位を高めた我が国は、幕末に欧米諸国との間で結ばれた不平等条約を対等なものに改めることができた。

本単元では、「ノルマントン号事件」を契機に、不平等条約を改正させなければならないという切実感のなかに国力を高める必要性が生まれてきたこと、そして、諸外国と対等な力がもてる

ようになるために政府は様々な努力や試みをしてきたことを、絵画資料や史料、年表などの各種資料から追究するなかでとらえるようにしていきたい。

### (3) 支援の工夫 ～主に学習材、友達、児童と教師との響き合いの充実に向けて～

#### ① 「つかむ・見通す」場での支援の工夫

- ・ 「ノルマントン号事件」の風刺画から、だれが、いつ、どのようなことをしたのか詳しく見つけさせることで、本単元に意欲をもって取り組めるようにする。
- ・ 風刺画の吹き出しにそれぞれの立場を考えて書き、話し合うことで、不平等条約に対する当時の国民の不満がより具体的になり、条約改正に向けて日本がどのような政策をとっているのかということに関心がもてるようにする。また、外国の実情にも触れ、日本の立場だけでなく、外国の立場にも考えを深めていくようにする。

#### ② 「調べる・深める」場での支援の工夫

- ・ 「条約改正のあゆみ」について調べるときには、自作年表作りの活動を取り入れる。年表作りの観点を示し、どのように進めていけばよいか理解できるようにする。この活動を通して、条約改正に努めたことがとらえられるようにする。
- ・ 「陸奥宗光」や「小村寿太郎」の業績の資料や、条約改正には様々な人の努力があったことを示す他の資料を提示することで、条約改正に至るまでの困難さと政府の努力についてとらえることができるようにする。
- ・ 日清・日露戦争の特色を分かりやすく整理できるように、表に書き込めるワークシートを用意する。「アジア勢力地図」や「講和条約」の資料より、二つの戦争がどのような影響を与えたかを考えることができるようにする。
- ・ 韓国併合に伴いおこった「三・一独立運動」や「創氏改名」などの資料で補足説明することで、朝鮮の人々は日本に苦痛を強いられたことに気づくことができるようにする。
- ・ 児童が自分の考えをもつ根拠となる情報を的確に得ることができるよう、教科書や資料集から適切な中心資料を用意する。
- ・ 一人調べをする前に、めあてや予想に対して、どの資料で調べたらよいかを話し合い、資料を精選・吟味することで、より効果的な調べ学習ができるようにするとともに、どの児童も見通しをもって学習に参加することができるようにする。
- ・ 調べたことをノートに箇条書きし、自分の意見や感想を書き留めておくことでグループや学級全体での話し合いに自信をもって取り組むことができるようにする。
- ・ 学習の中で話題にしている事象の関連を図式化して示したり、共通点や相違点をとらえやすくしたりするように板書の仕方を工夫する。

#### ③ 「まとめる」場での支援の工夫

- ・ 本単元を通して、調べたことを整理したり、再構成したりしながら条約改正のあゆみや様子を「4コマ風漫画」にまとめる活動を取り入れる。この活動を通して、人物の働きや諸外国との関係に気づくことができるようにする。
- ・ 作成した作品をお互いに見合うことで友達のいろいろな見方や考え方、表現方法のよいところを認め合ったり、新しい発見をしたりすることができるようにする。

#### 4 単元の構想 (全6時間)

過程	次 時	学 習 活 動	支 援 と 評 価
つ か む ・ 見 通 す	一 ①	○ ノルマントン号事件を調べ、単元の学習課題をつくる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ノルマントン号事件から分かることは何だろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ノルマントン号事件を風刺して描かれた絵」(ビゴ作)を見て、イギリス人と日本人の様子を対比して観察し、不平等条約がどんなものだったかをとらえることができるようにする。</li> <li>○ 日本の人々の思いや願いを考えることにより、不平等条約を改正させなければならないという国民の切実な願いに共感するとともに「<b>不平等条約の改正は今後どのようなようになっていくのだろう</b>」という学習課題をつかむことができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ノルマントン号事件の様子について気づいたことや疑問に思ったことを話し合うなかで、不平等条約はどのようなかということに関心を持ち、学習課題をつくることができる。 「関心・意欲・態度」(発言・ノート)</p> </div>
調 べ る ・ 深 め る	二 ① ②	○ 日清・日露戦争について調べ、その影響について考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どうして、中国やロシアと戦争をしたのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書の記述に着目することで、戦争の背景として朝鮮をめぐる日本・中国・ロシアの動きがあったことをとらえることができるようにする。</li> <li>○ 二つの戦争の勝利で日本が軍事強国として認められ、国際的地位が高まったことから、朝鮮・満州に勢力を伸ばした日本の意図に気づくことができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日清・日露戦争の様子について、地図や年表などの資料から調べたことをノートにまとめることができる。 「技能」(ノート)</p> </div>

調 べ る ・ 深 め る		<p>日清・日露戦争の結果、日本の国際的地位が向上するとともに、朝鮮半島に勢力を拡大したことを理解することができる。</p> <p>「知識・理解」(観察・ノート)</p>
	<p>③ (本時)</p> <p>○ 条約改正のあゆみについて調べ、改正された理由を考える。</p>	<p>なぜ日本は、不平等条約を改正することができたのだろう。</p> <p>○ 条約改正までのあゆみを年表にまとめる活動を通して、条約改正の背景には、それを求める国民の願いがあっただけでなく、近代国家を目指した政府の政策があったことにも気づくことができるようにする。</p> <p>○ 二つの戦争の勝利が国際的地位を高めたことと不平等条約の改正とを関連づけて考えることができるようにする。</p> <p>不平等条約を改正できた理由を「条約改正のあゆみ」や二人の外務大臣の業績資料などを関連づけて考えたり、そのことを適切に表現したりすることができる。</p> <p>「思考・判断・表現」(発言・ノート)</p>
	<p>④</p> <p>○ 韓国を併合する前後に日本がとった政策について調べ、併合により朝鮮の人々が苦痛を強いられたことをとらえる。</p>	<p>日露戦争後、朝鮮はどうなったのだろう。</p> <p>○ 「日本語で授業を受ける朝鮮の子ども」や教科書の記述など具体的な例を通して、日本が朝鮮に対してとった政策を調べることができるようにする。</p> <p>○ 「三・一独立運動」や「創氏改名」について補説することで、朝鮮の人々が苦痛を強いられたことをとらえることができるようにする。</p> <p>韓国を併合した日本の政策に問題意識をもちながら、当時の様子について調べ、朝鮮の</p>

			<p>人々が苦痛を強いられたことについて考え、適切に判断することができる。</p> <p>「思考・判断・表現」(発言・ノート)</p>
まとめ	三 ①	○ 条約改正についてまとめ、発表し合う。	<p>条約改正について、学習して分かったことや考えたことを、4コマ風漫画にまとめよう。</p> <p>○ 学習して分かったことを4コマ風漫画にまとめていくことで、学習を通して自分が何を学んだか振り返ることができるようにする。</p> <p>○ できあがった漫画を互いに読み合ったり、発表し合ったりすることで、学習を確かなものにする。</p> <p>条約改正ができた背景を国力の充実という面からその歩みや成果を理解することができる。</p> <p>「知識・理解」(作品・発言)</p>

## 5 本時案 (第二次 第3時)

目標	条約改正の歩みについて調べ、年表にまとめることを通して、日本は、不平等条約の改正に向けて様々な努力を積み重ねてきたことをとらえることができる。	
過程	学 習 活 動	教 師 の 支 援 と 工 夫
つかむ・見通す	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>めあて なぜ日本は、不平等条約を改正することができたのだろう。</p> <p>2 不平等条約が改正された理由を予想し、話し合う。</p>	<p>○ ノルマントン号事件の絵を提示することで不平等条約がもたらす不当な扱いとそれに伴う国民の考えを改めて実感し、改正を強く願っていたことを想起する。</p> <p>○ 関税自主権の内容から、当時は対等な貿易ができていなかったことを確認するとともに、年表より1911年に回復した事実を視点をあて、本時のめあてをつかむようにする。</p> <p>○ 不平等条約が改正された理由を予想し、ノートに書き留めることで、自分の意見をもち、話し合いに参加できるようにする。</p>

つ か む ・ 見 通 す		<p style="text-align: center;">--- 予想される児童の反応 ---</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本が強くなったから。</li> <li>・外国のまねをした生活をしたから。</li> <li>・改正してもらうように強くお願いしたから。</li> <li>・戦争に勝利し、外国に日本が強くなったことを認めさせたから。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 予想に対して、先行経験や既習学習などの根拠も併せて発表するように助言し、話し合いが深まるようにする。</li> <li>○ 「改正してもらうようにお願いしたから」という考えが出た場合は、「だれがお願いしたのだろう」「何回くらいお願いしたのだろう」と投げかけ、予想を深めることができるようにする。</li> <li>○ 教科書の「条約改正のあゆみ」や陸奥宗光と小村寿太郎の業績の資料から調べれば良いことを確認し、不平等条約に関わる事項は自作の年表に調べて書くように助言する。</li> </ul>
調 べ る ・ 深 め る	<p>3 不平等条約が改正された理由を、条約改正までのあゆみ等から調べ、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調べたことを小グループで意見交換することで、自分の意見を深め、学級全体での話し合いにも生かすことができるようにし、話し合いの充実を図る。</li> <li>○ 条約改正に向けての国民の願いの強まりと、外交による度重なる交渉を関連させて考えることができるように年表資料を効果的に活用する。</li> <li>○ 何度も交渉したが、失敗した事実の分かる別の年表を提示し、いかに条約改正が難しい問題であったか確認するとともに、50年近く努力を続けたことに気づくようにする。</li> <li>○ 児童の発言を政府の努力、国民の願い、外国との関係という三つの視点で板書をまとめる。</li> <li>○ 「条約改正を欧米諸国に認めさせたものは何だったのだろう」と問うことで、どれか一つが条約改正の理由ではなく、多くのことが重なって日本が外国から認められ条約改正をすることができたことに気づくことができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">不平等条約を改正できた理由を「条約改正のあゆみ」や二人の外務大臣の業績資料などに関連づけて考えたり、そのことを適切に表現したりすることができる。 「思考・判断・表現」(発言・ノート)</p> </div>
ま と め る	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p style="text-align: center;">まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本は、国民の願いが高まる中、不平等条約の改正のために外務大臣が交渉を続けたり日本の近代化をはかることで国の力をつけたりするなどいろいろな努力をしてきた。それが積み重なって欧米諸国に認められ条約を改正することができた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 板書を振り返らせながら自分の言葉で記述することで、本時のまとめとする。</li> <li>○ 友達の考えのよかったことなどを発表することでお互いのよさについて認め合い、満足感や成就感をもつことができるようにする。</li> </ul>

<p>5 次時の学習について知る。</p>	<p>○ 「欧米諸国に対しては対等な立場を得たが、朝鮮との関係は今後どうなっていくのだろう」と投げかけることにより、次時の学習に意識をつなぐことができるようにする。</p>
-----------------------	--